

会 議 録

会議の名称	第4回結城市公立保育所のあり方検討委員会
開催日時	令和4年8月30日（火）午後2時から午後3時40分まで
開催場所	結城市役所4階 大会議室3
出席者	委員（伊勢委員長、秋元副委員長、小嶋委員、江連委員、落合委員、外山委員、村田委員、瀧田委員、清水委員） 事務局 保健福祉部部長 外池晴美、子ども福祉課長 松本弓子、主任 山縣美喜
議 題	<p>1 開会 進行：松本</p> <ul style="list-style-type: none"> ・配布資料の確認 ・第3回会議資料及びアンケート設問資料の確認 <p>2 伊勢委員長あいさつ 今回はアンケート結果を共有、参考にしながら、議事（2）再編計画の方向性について意見を出し合っていければと考えております。</p> <p>3 議事 進行：伊勢委員長 （1）公立保育所のあり方についてのアンケート調査結果について 資料説明：松本</p> <p>伊勢委員長） 回答率が約4割ということで、統計的には十分耐えられる数であると考えられる。特に、背景にどのような気持ちが隠れているかが、その他の意見を見ることが重要。</p> <p>今から少し時間を取るなので、その他の意見に目を通していただきたい。</p> <p>一通り目を通したが、つらくなった。 以前、医療従事者の方が、ツイッターで100人のいいねで少し元気が出て、1人の批判的な意見で気持ちが折れてしまうということ話をしていたが、今、私も同じような気持ちでいる。</p> <p>例えば、5ページの「よい」と思われるものをと聞いているのに、「まったくない」というような意見を述べている。これには何かしらの思いがあって、これらの意見をどのように整理して受けとめていくかということが大事ではないかと思う。</p>

これらの意見に目を通しての感想を皆様より頂戴したい。

秋元副委員長)

当該地区の回答者が70人で、大規模改修や新しく建て直すという意見が意外に多いなという印象を受けた。

伊勢委員長からもあった通り、この意見を重要に受け止め、慎重に判断していかなくてはならないと思う。

小嶋委員)

ある程度予想していた内容。

通わせている理由は自宅から近いから。気がかりなことは、施設設備や安全確保、充実してほしい保育サービスは病児・病後児保育や小学校へのつなぎ等。

大体予想していた通りの意見ではあったが、多岐にわたる意見があり、アンケートを実施したことにより、傾向が見えてきたと思う。

江連委員)

山川地区は70%の回答率。結城南中の近くに合併するのではないかという話が伝わっているからだと思われる。

アンケートで通わせている理由を見ると自宅から近い、不安に思う理由を見ると自宅から遠くなるという回答が出ている。この回答から、どのような形で安全面等を配慮し、通えるのかを模索していかなくてはならないと思う。

また、建て替えるという内容では、新しく建て替える、統合して建て替えるが半数以上を占めて、現状維持が一番いいというところでなかなか新しい意見が出てこない。そのうえ、統合によって園が減ってしまうと待機児童が出てしまうのではと不安に感じているのでは。

合併によって、子どものより良い成長や生活環境向上、保育士の人材確保等が期待できるといった意見が多いので、こういう問題もあるけど、今後より良い保育所にしてきますよというアピールをしていくのが良い方法かなと思う。

落合委員)

保護者の思っている不安や、これから期待すること等のコメントがあったので、真摯に受け止めていかなくてはならないと感じた。

また、真剣にアンケートに取り組んでいるということが実感できた。今後の方向性についても新しく建て替えたほうが良いと思うという意見があったので、アンケートを実施してよかったと思う。

外山委員)

今回は保育所の設備についてのアンケートであるにもかかわらず、職員や保育士の対応についてなど、サービスについての回答が多いと感じた。建て替えなどにより遠くなったとしても、保育サービスの内容が意識してもらえたと感じることができれば、保護者も納得できるのでは。今後は内容についても視野に入れながら検討していくことになるかと思う。

村田委員)

自由記述欄やその他の意見以外は、予想以上に前向きな意見が多かったかなという印象。

市、事務局や私たちの考えと、保護者の考えには差があると感じた。その差をうまく埋めることができれば、その他の意見に出たような内容も少しずつ解消されていくのかなと感じた。私たち職員はこういった意見は格好いい言い方をすれば、戒めとして考えている。

瀧田委員)

幼稚園の立場から意見すると、今現在、茨城県内の幼稚園の待機児童はゼロで、空き教室も多いという状況。先日、県の少子対策課の会議に出席したが、昨年度は約600人の待機児童（保育施設）が、今年度は6人になったとの報告、100分の1にまで減っている。

茨城県内には6、7か所の過疎地があるとのことだが、これからは過疎をどうするかというのが、議論の対象になってくると感じた。

上山川保育所も山川保育所も統廃合すると、人の集まる場所がなくなる、地域の特色がなくなると考えるのではないか。個人的には、公民館のような新たに人が集まれるような場所の存続を考えていかななくてはならないのかなと思う。

小中学校の統廃合は先日議会でも決定されたかと思うが、2:6:2の法則や、60:40の法則のように6割の人が賛成した場合、そちらの意見を尊重して進めていくという議論があるとのこと、方向性についてはそのように進められればいいのではないかと思う。

清水委員)

委員としてしっかり読んだつもりだったが、1民間保育園経営者としては何とも言えない気持ちになった。

今日の午前中も見学者がいらっしやったが、上のお子さんは違う園に通っており、なぜ同じ園ではないのかと聞いてみると、いろいろな思いがあると感じた。保育サービスについて調べている保護者はたくさんいるが、入所説明会にくる方の3、4割はやはり近いからという理由が多

い。もちろん、上のお子さんが通っているという理由もあるが、数年に一度くらいは雰囲気違ってということで転園される方もいて、また逆に他の園から転園されてくる方もいる。

公立保育所を今後どうするかということに目を向けてしっかり読んでいたつもりだったが、率直な意見として、アンケートの結果をどうとらえて活かしていくかというところかなと思う。

伊勢委員長)

いろいろと情報を集めて他の自治体と比べて意見を出して下さっている方もいる一方で、私たち保育所幼稚園は法律に基づいて定められている課題に取り組まなくてはならないということが、やはり伝わっていないのかなと思う。

保育所保育指針に載っていないということは、その時期にやるべきではないという内容であるのだが、教育サービスという言葉で保護者はそれを要求してきている。このような意見を確認し、私自身が冷静でいられなくなってしまったが、みなさんの意見を伺い少し頭が冷えた。

これらの意見を議事(2)の再編計画に繋げていくかということで、具体的にどのような方向性にもっていくか考えていくことになる。それには保育のニーズ調査に基づいて作っていかなくてはならないが、私たちの手元には中期レベルの計画があるわけではないので、詳細なデータがないと細かい計画を作成するのは難しい。

このあり方検討委員会ではこのような意見があり、こういう方向性で進めましょうというまとめていくのが最低限の役割なのかなと思う。

実際、アンケートの結果を見ると、状況をふまえ整理統合して建て替えるが199、それぞれの場所に建て替えるが140ということで、新しく建て替えるということは共通していて、あとは大規模改修と民営化の三つに分類できる。このように見ていくと、整理統合してと、現在ある場所もしくはその近くにという、相反する意見ではあるが、新しく建て替えるという意見が非常に多い。

とりあえず方向性としては、新しく建て替えるということで決めておきたいと思いますが、いかがでしょうか。

(委員了承)

それでは、新しく建て替えるという方向でアンケートの意見を活用し進めていきたいと思いますが、何かご助言ありますでしょうか。

小嶋委員)

11ページ最後に地域の防災拠点がなくなるという意見が出ていますが、保育所は防災拠点になってはいないかと思います。しかし、ハザード

マップでは浸水区域内である可能性はあるので、建て替えるのであれば、防災に対しても少し意識を向けていかなければいけないのかなと感じた。

江連委員)

まず、最初の出だしは、現在ある場所に建て替えるのか、整理統合して建て替えるのかと考えたときに、私個人の意見としては、統合して建て替えるということで、保育所の数は減るが、待機児童の心配、保育士の確保、遠距離通園の心配もないということを示せば、全員が納得するのは難しいかと思うが、一つの手かと思う。

伊勢委員長)

回答のなかにもいくつか具体的な疑問が出ていたかと思うが、疑問に対してきちんとこういった対応をしますと示すことができれば、こういう対応ができるのではないかというお気づきの点があれば、ご助言いただきたい。

秋元副委員長)

7 ページで保育サービスの2・3番目の意見として、教育プログラムや小学校へのつなぎという意見が多く見られるが、前回の会議の時に、伊勢委員長からご教示いただいた、保幼小中連携という極めて前向きなプログラムが組める可能性があるという話と保護者が思っているところが少しリンクしているところがあると思われるので、統合に前向きな組み立てでもできるのではと感じた。

伊勢委員長)

保護者の教育への心配の部分にも十分対応できるということに説明ができる。

自分の専門分野の特別支援教育や特別保育で考えると、リソースの集約でいろいろとメリットが出てくる。ここでのリソースは人員や建物でスケールメリットと言ってもいいと思うが、ある程度の人員と資源を確保し、複数人数で展開していくと質の向上が見込める。先ほどの保幼小中連携ということも踏まえて、資源を集中させるという言い方ができるのではないかと思う。また、子どもたちのことをよく考えてほしいとの意見があったが、考えていないわけではなくて、移転集約して持っていた部分の代わりになるものが欲しいという心情なのかなと。第1回目、第2回目くらいの時に少し発言しましたが、例えば、公民館とか共同館のようなもの、あるいは文化的なものや、お祭りのようなものを毎年きちんと開催するとか、その他、手当等提供できれば納得いただけるの

ではないかと思う。

7ページの実施してほしい保育サービスで、土曜保育、日曜保育を実施してほしいという意見、15%とそこまで目立った数字ではないが、自由記述欄とも合わせると、ある程度要望がある。公立の役割をそこへ持っていくとか、また、病児病後児保育や障害児保育とか、専門性の必要な保育サービスを提供できるというように、喪失感に対して別途補完していくと提案をしていくことができれば納得いただけるのではないかと思う。

村田委員)

私は意見に出た保幼小中連携に賛成、できたら最高だなと思っている。ただ、このアンケートの裏側、保護者の背景には、南中の近くに新設の小中一貫校を建設するという話が先行してあるのではないかと思う。それがなければ、それぞれの場所に建て替えてほしいという意見が多くなのかなと予想していた。できればより良い方向に導いていきたい。

仮にこの会議で方向性が出たとして、土地の確保はいかがか。

市・松本課長)

会議で方向性が決まってからと考えていたので、具体的にどこへ建てるのかはまだ全然動いていない。今後リサーチしていく。

村田委員)

委員の皆さんが忙しい中、何回も集まって方向性が決まったのに、いざ土地がありませんとなったら、ちゃぶ台返しになってしまうので、確認したかった。

伊勢委員長)

一応、これまでの話をまとめると、保育所は少なくとも2か所は必要、公立保育所は残したほうが良いというような公立保育所の役割を前面に打ち出す、保育の質の向上を取り組んでいくという内容かと思う。

他にご意見や、記憶違い、漏れ等があれば補足説明をお願いしたい。

市・松本課長)

議事録を確認すると、公立保育所は非効率的であっても、2か所くらいが必要ではないかということが確認できた。その中で具体的には場所を移すということや、保育士をどうしていくかが問題となってくる。山川保育所を新設するのか、上山川保育所を新設するのか、または統合して中学校の近くにするのかという選択肢でまとまっていたかと思う。ま

だこの時点ではアンケート結果がまとまっていなかったもので、アンケートの結果を踏まえて最終的にまたご意見をいただければということになっていたかと思う。

伊勢委員長)

今日の話し合いをまとめると、南中学校の近くに統合するという方向性になるかと思う。繰り返しになるが、統合して、その地域から持っていかれるものがあるとするれば、代わりになるものを別の方向で持ってくるという工夫も必要。ただ単に集めるだけではなく、スケールメリットや質の向上、保護者の方から意見の出ている教育に対する要望なども付け加えていければ。せっかく新しくするのだから、外見だけではなく、建物に見合う保育内容の向上もきちんと目指していく。

市・外池部長)

確認させていただきませんが、公立保育所は新設したほうが良く、場所については、結城市を南北に分けたときに、北の地域と南の地域に1か所ずつ必要という意見が出た。また、保幼小中の繋がりについても意見が出たかと思う。

南中の小中一貫は決まったとあったが、保育園を新設するなら、南中学校の近くが最適だという形で提言してよろしいか。

伊勢委員長)

前にも申し上げたかと思うが、保幼小中連携では物理的距離が重要となってくる。アンケートの意見でも出てきているが、すぐに交流できるような状態であるというのが、効率的だし、効果もあげることができる。

村田委員)

水戸市の国田義務教育学校は、小中一貫連携ですずっとやってきていたが、義務教育学校になった後から、保育所が敷地内か近隣かは分からないが、入ってきた。近づけることができるのであれば、限りなく近いほうが教育効果はあがる。

江連委員)

第1回目にも質問した件だが、遠距離通園となった場合に、バスを出すということは可能なのか。小中一貫ではバスを出すという話を少し聞いたので、今の時点で分かれば教えていただきたい。

市・松本課長)

バスを走らせることは可能だが、小さいお子様は保護者の送迎でない

と登所できないので、全員がバス通園出来るわけではない。また、保護者の中でも、保育所に直接言って先生と話がしたいという方もいるようなので。

伊勢委員長)

やはり近くに通わせたいというニーズが大きいということは無視できないと思うので、代わりにこういう対策がとれるということが必要になる。例えば、小さいお子様は保護者の送迎という話が出たが、3歳以上であればこういう形で送迎できるということが一言付け加えられる。この一言があるのとないのとではかなり違って聞こえてくると思う。

瀧田委員)

定員については、民間の保育協議会と話し合っただけで決めていただければと思う。

あともう一点、学童保育についてデータがあれば、人数や、問題点などの実態等、次回教えていただきたい。学童保育も保育所も大体一体化しているの、それも考えながら進めていただきたいと思っている。

村田委員)

本校の場合だが、128名中、学童利用者は30～40名。学校の1教室を開放している。朝は集団登校し、そのまま学童クラブへ行き、午後6時以降、保護者が迎えに来るというシステム。学校施設を使用している学校はほぼ同じようなシステムだと思う。利用者は増えてきている。

伊勢委員長)

利用者が増えてきているということで、校舎活用も一つあるとは思いますが、専用の施設も欲しい。利用者が増えてきて、専用の施設ではないので、狭いという問題がある。また、指導者や人が少ない中でやらなくてはならない。今回は、公立保育所のあり方ということだったので、この辺のことは触れてはこなかったが、可能であればその辺も充実させたい。

市・外池部長)

今現在、定員は山川60名、上山川60名で、城西と合わせて200名。増やすような形で、公立保育所としての役割を強化したほうがいいのかとご意見いただければ、いただいた内容で提言したいと思う。また、第二期子ども子育て支援事業計画も県に提出することになるので、委員の皆様や認可保育園の方々の意見も聞きながら最終的に定員は決定されることになる。

この会議での意見として、縮小規模にするのか、同等程度にするのか、

それとも少し拡充するのかと提言いただければ、市長、議会に提言するという形になるかと思う。保護者の自由記述を見ても、現状維持もしくは増員という形になるのではないかと思う。

瀧田委員)

先ほど伊勢委員長からあった学童保育についてだが、民間でやられているような学童保育とまではいかななくても要望として新しい保育所に学童保育の機能も加えていければという認識でよろしいか。統廃合した学校の中には、活動していくことをもちろん考えているかと思うが、教育委員会としては正直やりたくないというのが本音なのかなと。筑西市とかは統廃合したときに学童保育利用希望者が約100人を超えて、誰が運営するのという問題があったり、社会のニーズというか、今、働くお母さんが多い中、そういったデータがあればありがたい。

小学校から中学校へと連続性があると教育水準も上がっていくと思う。公立保育所の統廃合とは少し違っているかと思うが、その辺も分かれば教えていただきたい。

市・外池部長)

現行のシステムでいくと、空き教室を使っている学校と補助金を使用し、専用施設を作っている学校がある。いずれも公設公営で保護者会に委託していて、学校施設内で運営しているという現状。教育委員会としては、大きな方針は変えないとのこと。

伊勢委員長)

保護者運営はあまりよろしくないという話を聞く。運営側と預ける側の保護者同士がぶつかってしまう。

市・外池部長)

学童保育については、10月から業者に委託をお願いするような流れだが、保護者的には今まで苦勞して運営してきたものをいきなり業者へ委託するというのは心情的に少しあるように感じる。すべてが民営化にできるようにきちんと準備はしているのだが、ご理解いただくのがなかなか難しい状態。

伊勢委員長)

公立保育所のあり方というところの外延の話で学童保育ももちろん含まれる。なかなか難しいかと思うが、複合的に考えていく。次回の会議の時に市全体の状況がわかるような資料があれば、それを委員全員で共有したほうがいいかと思うので、お願いしたい。

瀧田委員)

教育委員会のほうでそういった話が出ているようなので、一応情報提供ということでお話しした。

伊勢委員長)

厚生労働省も以前国会審議の中で、児童福祉法の保育所を利用する子供の定義みたいな話が一度あったが、現行の児童福祉法を見ると就学前の子供に限定していない。だから、上の子供も預かろうと思えば預かれるというように、文章は読み取れる。しかし、実態としては違っており、だから学童保育が成立しているというのは、何か歴史的背景がある。その辺も含めて、次回資料を共有できればと思う。

色々な議題を付け加えて皆様に意見を伺い、議題の1と2を流れのような形で進めてきましたが、先ほど私が説明したような方向性のまとめ方でよろしかったでしょうか。

委員) 了承

伊勢委員長)

ご賛同いただいたということで、方向性としてはそのようにするということをお願いしたい。

続いて、議題3のその他について、事務局から説明をお願いしたい。

市・外池部長)

委員の皆様にご協議いただいた内容で中間報告としてまとめさせていただきますが、よろしいでしょうか。

伊勢委員長)

一つ確認ですが、中間報告の内容を次回改めて確認したいがよろしいでしょうか。

次回予定：第5回公立保育所のあり方検討委員会

令和4年9月26日 月曜日 午後2時から

市役所4階大会議室1

議題：公立保育所の保育内容について①

小学校等との連携・接続について

公開・非公開 の別	公開
問 合 せ 先 (事務局)	結城市役所 保健福祉部 子ども福祉課 保育係 TEL 0296-54-7003 FAX 0296-49-6718 e-mail:kodomohukushi@city.yuki.lg.jp
そ の 他	